（昭和42年7月21日 第3種郵便物認可・1部8円）　東由利村報　昭和48年（1973年）9月1日　第199号

東由利村報

No. 199
発行
秋田県東由利村役場
昭和48年9月1日発行
印刷
KK本間印刷所

村の人口
総数 6,847
男 3,347
女 3,500
世帯数 1,541

村消防大会

「優劣の差、紙一重」

村長訓示に〝みなぎる決意〟

七月二十五日、新体制移行後初の村消防訓練大会が台山グラウンドで開催され、佐藤団長以下二二五人の精鋭が日頃の訓練成果を村民の前に披ろう、第四分団（石渡力造分団長）が初の総合優勝を飾り八月三日の郡大会へ出場しました。

国旗掲揚、殉国の碑への目禱に始った大会の冒頭、小松村長は「偉大なる消防力は組織機器の強化に加え、団員個々の人格資質によるところが大きい。規律・技能の練磨に一層の努力を希望する…」と訓示、それをうけた団員たちの表情はキリッと引き締まり身命を投げうって村民の防災に取り組む消防人の決意をみなぎらせ、参観者に大きな感動を与えていました。

へんぽんと日の丸が翻る青空のもとで、力強い行進や反転を繰り返えす小隊訓練、砂塵を上げ寸刻を争う操法訓練そのいずれにも災害の防人としての決意があふれ、観覧席から大きな声援がとんでいました。

大会の最中板戸部落に林野火災が発生、訓練から直ちに本番出動に切りかえるという番狂わせの一幕もありましたが、間髪を入れずに出動した常備消防と機動力にものを言わせ、被害を最少限に食いとめた村消防団員の活躍が高く評価されました。

村民の防災ひとすじに、犠牲的奉仕の精神を発揮しながらも、報われることの少ない消防団員にとって、撤去などに協力ントの設営や積極的な活躍、参観者の熱心な声援は大きな励ましになっているようでした。

予期しない臨場での実戦活動もあった同大会の閉会式では、審査長をつとめた鈴木満広域常備東由利分署長から「訓練・動作・技能も適格で優劣の差はまさに紙一重、操法訓練で吸管搬送の粗暴・結合の不完全なものが若干見られるが組織改編から日が浅い割には全般的に成績が立派…」と講評があり、続いて成績発表と表彰が行なわれ、第四分団が初の優勝旗を手中にしました。

このあと、組織の改変で退職された佐々木直三郎団長ら旧団幹部九人に日本消防協会長、村長等から長年の労をねぎらう感謝状の贈呈が行なわれました。

上位入賞は次のとおり。

【総合】①第四分団（石渡力造）②第二分団（小松安雄）③第五分団（梅津栄一）

【訓練礼式】総合の部に同じ

【操法】①五―二―三（鈴木博昭）②二―二―三（小松忠一）③五―一―一（佐々木正男）

○数字は順位。カッコは分団長または班長（指揮者）。漢数字は所属分団・部・班。

感謝状を贈呈された旧幹部

団長佐々木直三郎。分団長長谷山正男（二）佐藤徳市（三）太田行雄（五）遠藤真吉（六）佐々木一郎（七）長谷山松記（八）大日向小十郎（九）小野長一郎（十三）カッコは旧所属分団。

【写真】　砂塵を上げ寸刻を競う操法訓練と採点する審査員

「世界全人類のため」

成人者の誓い　〝郷土づくり連帯で〟

記念講演　村成人式

▽…満二十歳に達し、名実ともにおとなの仲間入りをする新成人者を祝い励ま…△▽…す昭和四十八年の村成人式は、八月十六日東由利中学校体育館で行なわれ、…△▽…昭和二十七年四月二日から同二十八年四月一日までに生まれた在村並びに村…△▽…外在住の村出身成人該当者二百四十余人中、百五十一名が出席して盛大に行…△▽…なわれました。

三々五々、旧友と連れ立って受付けを済ませるどの顔も何年ぶりかの再開を喜び、近況の交換や思い出話に顔をほころばせ生き生きと目を輝やかせていました。

国歌斉唱に始まった式は出席した新成人の紹介に続き小松村長から伊東絹子さん三人の代表に成人証書や記念品が贈られました。

「成人は大人になったことであり、同時に真の社会人として出発点に立ったことでもある。分別をもって長い人生の方向を誤らないこと…」と式辞を述べた小松村長に続き、長沢村議会議長・佐藤笠原村選挙管理委員長・佐藤教育委員長からそれぞれ励ましの祝辞が寄せられました。

成人者を代表して畠山健君（石高）が「若人の意欲と情熱と大人としての自覚と責任で住みよい郷土づくりに連帯の輪を広げて行きたい…」と決意を誓い式典を終わりました。

このあと、「新成人に期待するものと題して、文学博士であり茨城県土浦日本大学高校長の佐藤政治氏（本村新処出身）から「青年に最も大切なものは勇断や決断の『断』である。熟慮の上、一たん断を下したら最善を尽して実行に移すことが必要…。村は国の内外に雄飛できる人間づくりのため教育に力を入れている。村を中心に、世界全人類の幸せのため日本人の優秀さを発揮できるよう『断』を忘れることなく正しい人生の道程を歩んで欲しい…」と記念講演がなされました。

アトラクションには、佐藤氏の土浦日大高校吹奏楽部員約六十名によるブラスバンドの演奏が行なわれ、熱気にむせる会場をいとわず、成人者たちはしばしの間うっとりと聞き入っていました。

例年どおり記念撮影で全日程を終え、帰路につく成人者たちの軽やかな足どりから、新時代を背負うにふさわしい頼もしさが感じさせられました。

【写真】大人としての決意を新たにした成人者の晴れやかな顔、顔。

九月は敬老の月です。
経験豊かな老人たちの業績をしのび、老後の生活に生きがいを感じれるようみんなでいたわりあいましょう。

生産米価決定　1俵1万401円

作況やや良　本村の米代金　八億一千万円台に？

農家や農業団体から大幅な引き上げが要望されていた本年産の生産米価は、八月八日の閣議で前年比十六・一㌫アップ、一俵（六〇㌔）当たり一万四百一円という近年にない大幅引き上げで正式に決まりました。

アップ率十六・一㌫は、戦後の混乱期を別にすれば史上最高と言われますが過去四年間にわたる生産調整や米価の据え置き売り渡せると予想されるなどのことから、大幅アップの米価にチョッピリ喜びを見せる農家もあります。

円を要求していた農家の多くは「決定米価は要求額にほど遠く、満足できる額ではない…」と不満をのぞかせています。

とはいえ、前年より作付面積が増えたこと、現在の作況が〝やや良〟と見られ、今後大きな災害をうけない限り買入れ限度数量の七万八千俵は産調整や米価の据え置き売り渡せると予想されるなどのことから、大幅アップの米価にチョッピリ喜びを見せる農家もあります。

作柄がこのまま経過すると、この秋農家に入る米代金は八億一千百二十八万円程度と推定され、予想外の不作に見舞われた前年より二億九百四十万円増（米価引上げ分一億一千二百八十七万円。増収分九千六百五十三万円）が期待されています。

なお、一俵＝一万四百一円の米価は、うるち米一等から四等平均に包装代を加えた生産者の手取り予定価格一万三百一円（前年、八千九百五十四円の十五%アップ）に、銘柄奨励金（一俵当たり指定銘柄三百円、特例銘柄二百円）の平均額を加え、前年比十六・一㌫増となったものです。

休耕奨励　農家に総額三千万円

奨励金の概算金

米の生産調整が始められて四年目、本村では今年も達成率一一七㌫にのぼる七六・六㌫が休耕や転作を行ないました。

これに対して、今年限りと言われる休耕奨励金の概算金として一㌶当たり四〇円、総額三千十三万円余りが、お盆直前に本村の生産調整農家に支払われました。

残る二八円分、総額二千百万円余りと、上積みされる転作加算金は転作の最終確認を終える十二月に支払われる予定になっています。

七月に確認された本村の春転作面積は四八・一㌫にのぼり、これに対する加算金が約四百五十二万円と算定され、村や農協では転作の有利性をいかし、できるだけ秋転作も行なうよう奨励しています。

本村では明年度から約五〇㌫に及ぶ県営圃場整備事業の着工が計画されていますが本村分だけで約五千万円にものぼる休耕奨励金が本年度で打ち切られるだけに農家からはこれにかわる通年施工への助成措置に強い希望が出されており、村でも総力を上げ関係機関に要望していくことにしています。

事故撲滅を

スピードの出し過ぎなど無謀運転による交通事故が相変らず発生、県内の死亡者はすでに一〇九人に達しています。

思いがけない一瞬の事故が幸せな生活をめちゃめちゃに壊し人生を狂わせてしまいます。交通事故防止に全村民が一層の注意をはらいましょう。

【写真】八月十三日夜、島で電柱を折って側溝に突込んだ車。

○善意○

小松勉さん（宇戸坂）から亡父の香典返えしの一部として三万円が村社会福祉協議会に寄せられ、感謝されています。

今月の作業停電

次の日程で作業停電があり協力がのぞまれています。

▼**9月12日**　9時～12時舟打場・幅野。13時～16時老方中通・下通の一部。▼**同21日**　9時～12時岩館・法内全域。黒沢・大台。▼**同25日**　9時～12時上里・老方小附近一帯

ヤマメを試験放流

清流に富み、自然豊かな本村の各河川を魚族資源の豊庫にしようと、高瀬川漁族保護組合や村では積極的に保護増殖に力を入れていますが、このほど板戸川など村内五河川に二千尾のヤマメを試験的に放流しました。

ヤマメはサケ科の淡水魚でイワナと並び渓流魚の王様格とされ、多くのつりマニアを喜ばせている魚です。

放流されたヤマメは、同組合と村議会産経委員が雄勝町のふ化場を視察見学して入手したもので、よい試験結果が得られれば今後毎年継続することも予定されています。

また、魚体が大きく評判のよいアユについても、村内にふ化場を設置して増殖に力を入れるほか、遡行を妨げている頭首工の魚道を改修するよう関係機関に強力に働きかけて行くことにしています。

届出は速やかに

老後の生活を保障する国民年金はその権利を十分に守るために正しい手続きが必要です。

手続きの大半は資格の取得や喪失、住所氏名等の変更など本人による届出であり、次のような場合は速やかな手続き（届出）が必要です。

【資格取得届】▽20歳に達したとき。▽厚生年金などをやめたとき。▽サラリーマンの奥さん等が任意に加入するとき。

【資格喪失届】▽厚生年金に加入することになったとき。▽任意加入者が脱退するとき。

【その他】▽住所や氏名が変わったとき。▽保険料を免除してもらいたいとき。▽年金を受けようとするとき。▽加入者や受給者が死亡したとき。などとなっています。

なお、これらの届出等を必要とする方は、印鑑や国民年金手帳を持参の上、役場国民年金係までおいでください。各種用紙は役場で準備しています。

注 「明通り橋」架替発注

幅員４m＝橋長46m

村道明通り線（時雨山～地下の沢）にかかる明通り橋が老朽したため総額千四百二十一万円で永久橋に架替えられることになり、このほど工事が発注されました。

橋台、橋脚などの下部工は事業費七百五十八万円で大沼一広氏、上部工は六百二十九万円で菅原繁氏（秋田市）塗装仕上げは三十四万円で山田進氏（酒田市）がそれぞれ落札、工事を担当することになりました。

下部工の着工は八月十日で橋長四十六㍍、幅員四㍍の永久橋の完成は本年十一月十日に予定されています。

四日に広域防災訓練

九月四日、本荘市を中心に広域的な総合防災訓練が行なわれるため、本村の第三分団および東由利分署の消防自動車がサイレンを鳴らして出動します。

火の元に注意の上、火災と間違えないよう願います。

【写真】伝統を承継、獅子舞を演ずる若者たち。

夜を徹して獅子舞

伝統守り続ける若者たち

（舟打場）

年２回

日の午二回、悪疫退散や五穀豊穣を祈り夜を徹して伝統の獅子舞を舞いました。

舟打場地区では各戸の青年たちが組織する若者組合が中心となり、八月十三日および九月十一日の午二回、悪疫やうやしく参拝した後、部落の入り口に当たる橋の上で笛〝地内に獅子頭が流れついたのがそもそもの始まりとされ三個の獅子頭のうち最も古いと見られるものに「享保」の年号があることから、少なくとも二百四、五十年ぐらいの伝統があるものと見られ五穀豊穣に感謝する九月の獅子舞いのほか、新築された家でも災禍よけの獅子が舞われます。

そのほか、希望や初タナのある家では先祖の霊を慰めるため、神舞・ナヨリ・ヤサギ・もちつき舞など門獅子に加え五種類の舞も行なわれます。

若者組合の人たちは、獅子頭がある限り獅子舞は続くでしょう…と、暇を見つけては笛や舞いの練習に精を出し、郷土芸能の保存と伝承に取り組んでいます。

……

部落紹介は休載します。

道路愛護デー 村全域で奉仕の汗

行政推進の原動力に

年一回、全村民が参加、道路の美化清掃や補修を行なう本村特設の〝道路愛護デー〟は今年も八月八日に設けられ早朝から村全域で一せいに作業が行なわれ大きな効果をあげました。

涼しいうちにと、午前四時頃から作業を開始した部落もあれば、一日、あるいは二日がかりで路肩の草を刈り、輪だちの穴埋めや側溝の手入れを行なった部落もあります。

長年の願望がみのり、村内全区間の舗装が完了した主要地方道、玉米羽後線沿いの滓沢や向田部落では、舗装実現を喜びながら路側の草を刈ったあと、生活に密着している農道や牧道の手入れを行なっていました。

一方、同じ主要地方道でありながら砂利道のまま改良が進んでいない小倉や中の沢部落では、幅員三㍍に足らない道路で穴埋めを主体に作業を進め、早期改良に期待を寄せていました。

三十度を越す炎暑をいとわず、住民総参加で行なった奉仕の作業は行政推進の大きな原動力ともいえそうです。

あなたの〝人間愛〟に期待

11日献血車来村

九月十一日、村民の暖かい人間愛・社会愛を求めて献血車「あかつき号」が本村を訪れます。

献血は、激増している交通事故傷害者や病人の一命を救うために行なわれる手術時の輸血用血液を確保するために〝人間愛〟に燃える多くの人たちの善意に期待して行なわれています。

めざましい医学の進歩は、かつては「不治」とされた多くの病気から一命を救うまでになっていますが、手術に必要とする輸血用保存血液が全国的に不足し、一命にかかわる緊急手術が行なえないという事態もしばしば発生しています。

目標一七〇本

そこで、こうした事態を解消、人命を救う輸血用血液の確保のために、善意に期待する〝愛の献血運動〟が全国的に積極的に展開され、秋田県では各市町村毎に目標量を設定、必要量確保に全力をあげているものです。

本村の本年度の目標は一七〇本で、四月に次ぐ二回目の今回で目標の完遂が期待されています。

事前に十分な診察が行なわれ、健康な人からだけ医学的に何ら悪影響のない量を採取する献血は、健康な方だけにできる尊い愛の奉仕です。

この尊い行為は、多くの人たちの生命を救い、いつかの機会には献血者自身や親族の生命を救うことに大きく役立つことにもなります。

趣旨をよく理解の上、できるだけ多くの方が協力しあいましょう。

献血の時間と場所

▼10時30分～11時30分＝大琴佐々木貞一宅前。▼12時30分～13時30分＝蔵小学校前。▼14時～15時＝農協玉米支所前▼15時30分～16時30分＝役場

〝ストップマーク〟は飛び出し禁止の標識

〝交通安全世界の願い〟この標語に見られるように、交通事故防止は国民の悲願となっています。にもかかわらず事故はうなぎ上りに増加、八月二十五日現在県内の死亡者は一〇九人に達しています。

中でも、飛び出しなどによる車対子供の事故が三三㌫に及び、子供の事故防止については一層の配慮が求められています。

本村でも、村をあげて事故防止に取り組んでおり、その一環として村交通指導隊、警察官、交通安全協会各支部員が協力し合い国道一〇七号線や主要地方道玉米・羽後線沿道各戸の玄関前に子供の足型をとった白ペンキのストップマークをつくりました。

このマークは路上に出るときは必ず一たん停止、左右の安全を確認するための言わば交通標識です。

衝動的に飛び出し輪禍に会いやすい遊び盛りの子供たちに、家庭の責任でマークの意味をよく理解させ、左右の安全を確かめる習慣をつけさせましょう。

電話新設希望早めに

本村の電話加入台数は一、三六九台で、人口一〇〇人当たり一七・四台という県平均を大きく上まわる一九・一台の普及率になっています。

とはいえ、急激に上昇している電話需用に伴ない、電々公社には新・増設の申し込みがなお殺到しています。

しかしながら、回線の制約等から即座に架設できるところまでは行っておらず、こうした状態はなおしばらく続くことが見込まれるので、新たに架設を希望される方はできるだけ早めに申込まれたいとしています。

電話新設者

最近新設された電話は次のとおりです。

大沼一広（蔵新田）四七五番・東北化工秋田工場（新町）四五七番・高橋太市（下小路）六四四八番

免許写真カラーに

道路交通法施行規則の一部が改正され、本年十月一日から新たに運転免許を取得する人や更新する人の運転免許証が、これまでの二つ折から顔写真や記載内容をカラー現像した横長のカード式に改められます。

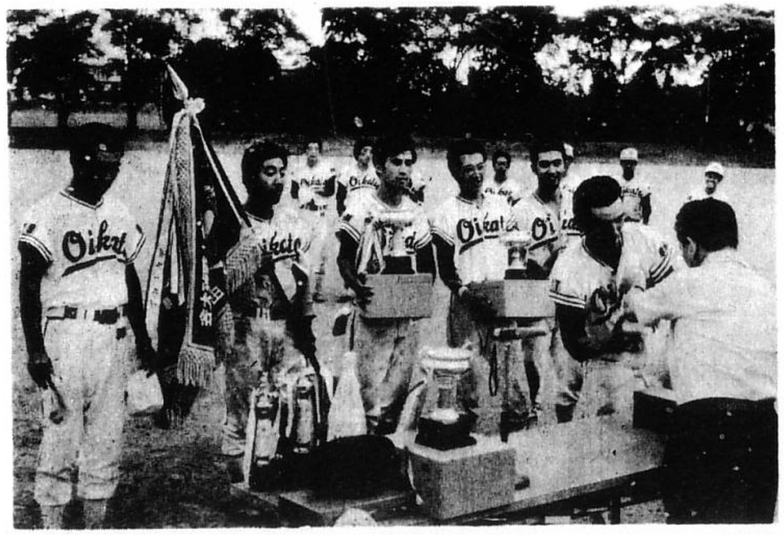
これに伴って免許用写真も白黒からカラー（タテ三㌢、ヨコ二・四㌢）に改められ、各種手数料も一〇〇円ずつ引き上げられます。

免許の更新時などは、従来のように白黒三分間写真というわけに行かなくなるので、早めに準備が必要といえます

改正手数料額は次のとおり

▽免許証交付手数料七〇〇円▽同更新手数料一、〇〇〇円▽同再交付手数料七〇〇円。

ただし、本荘警察署では、十月一日まで機械の設置が間に合わない見込みなので、本年末頃までは白黒写真もやむを得ないとしています。



身につく礼儀、積極性

蔵小で柔剣道教室

全校児童数が六十三人に急減、本年度から一部複式学級も生まれた蔵小学校（巌倉林治校長）では、小規模校となっても児童に気はくを欠きたくない…として、父兄や教師が話し合い〝活発で元気な子ども〟を目標に、希望者による柔剣道教室を始めています

希望者は全校児童の約八〇㌫にのぼり、毎週火・木曜日の放課後に練習を続け、夏休み中の八月八日から十日までの三日間、同校体操場で「土用げいこ」を行ないました。

しないに負けそうな一年生もいる剣道では、男女の豆剣士たちが、「おめんっ！」と黄色い声を張り上げ、元気いっぱいに、防具をつけた巌倉校長や、鉄製アングルに三本のゴムタイヤで造った練習台に打ち込んでいました

一方、三人の女の子もいる柔道では、先輩高校生や同校の菅生先生からけいこをつけてもらい、受け身や投げの型に汗を流していました。

真剣な表情で打ち込みや切り返しなどの練習を行なったあと、端座した児童たちは先生の注意を聞き数分間黙想、終わりには「ありがとうございました」と全員が声をそろえ、威儀を正して礼をするなど立派な豆剣士ぶりを発揮、たまたま参観していた父兄たちを喜ばせていました。

指導に当たっていた巌倉校長は「一年間は途中でやめないことを条件に始めたが、どの子も喜んでおりその心配もなさそう。次第に防具を充実してスポーツ少年団に育てて行きたい…」と語り、父兄の一人は「行動が積極的になり、礼儀も身について来た。先生方には難儀をかけるがますます発展させてもらいたい…」と手離しで喜んでいました。

現在同校にはしない十数本と数着の柔道着しかありませんが、かつて武道会を組織、柔剣道振興を叫んだ人たちの大部分が父兄となっているだけにことのほか熱心で、個人でしないを買い与えたり、防具も揃えよう…とする気運が高まっているといわれ、元気な子供に育てようとする父兄たちの熱心さがしのばれました。

【写真】元気いっぱい練習台に打ち込む児童

老方クラブ五度目の優勝

猛暑の中で好試合続出

（第15回村社会人野球大会）

村野球協会（小松民三郎会長）主催の第十五回村社会人野球大会は八月十四、十五の両日、台山グラウンドを中心会場に十六チームによる熱戦が展開され前年に続き老方クラブが三年連続（通算五度目）の優勝を飾りました。

初日の十四日は、最高気温三十四度を越す真夏以上の猛暑の中でA・B両グラウンドで十二試合が行なわれ、投打に健闘する選手のユニフォームはいずれも汗と泥でまっ黒になっていました。

Aグラウンドの最終戦は宿クラブを11―1、五回コールドゲームに破った農協チーム対袖山ファイターズを下した役場チームでしたが、一回裏四球で出塁した役場のトップバッター佐藤順一選手が、二死後ピッチャーの暴投であげた先取の一点がそのまま勝敗を決するという息づまるような好試合が演じられました。

一方、Bグラウンドの最終戦は、玉米青年会を7―1で破った蔵ローズ対、苦戦しながらも最終回サヨナラ本塁打で玉中OBに逆転勝した老方クラブが対戦、三回を終わって3―3の同点のまま日没引き分け再試合という好ゲームで初日を終わりました。

二日目の十五日は、ベスト四進出を決める再試合で蔵ローズを6―3に破った老方クラブの一戦を皮切りに、準決勝では、役場対佐藤林業が5―0で役場、新町対老方クラブは3―12で老方クラブがそれぞれ決勝へ進出しました。

【写真】優勝旗を手中にした老方クラブナイン

建造物の新改築

事前に村へ相談を

村内の道路整備計画には、村単独のものをはじめ広域市町村圏あるいは国県事業による長期的な構想や計画などもたくさんあります。

そのため村では、住宅や作業場など建造物の新改築、移転に当たっては、こうした長期計画等に支障を生じさせないよう、事前に村（建設課）への相談をのぞんでいます。

また、一〇平方㍍以上の建造物の新改築、移転等の場合は県に建築確認申請を行ない許可を得る必要があるのでこの手続きも確実に行なうようのぞんでいます。

慶弔だより

7月26日～8月25日

○出生　おめでとう

鈴木江利子　袖山　隆　三女
大庭信幸　舟木　信弥　長男

○死亡お悔み申上げます

佐藤治三郎　下通　65歳
鈴木トモヨ　大琴　72歳
高橋　直蔵　須郷　82歳

○結婚　おしあわせに

阿部新一）桂台
佐藤和子）新処

横山久美子　向田　均　長女
小島葉子　大琴　琢磨　長女
畠山まき子　上通勝男　二女
小野亜希子　玉新田健　二女
小野佳子　舘西　捷二　二女
阿部秀樹　蔵　次雄　長男